

クマタカ

第22号



立野のクマタカ

2019年10月25日発行 <http://stopdam.aso3.org/>

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康 熊本市西区島崎4丁目5-13

白川の河川整備計画が変更されます ～あなたの立野ダムについての意見を国交省へ！～

10月16日の熊日新聞に「白川水系河川整備計画（変更原案）を公表しました。皆様のご意見をお聞かせください」という、国交省と県からの小さな新聞広告がありました。

整備計画の中には、現在建設中の立野ダムも含まれています。立野ダムは、放流孔（幅5mのダム下部の穴）が洪水時に流木等でふさがり、洪水調節ができなくなり、熊本市など下流にとって災害を防ぐどころか、むしろ危険であることは明らかです。

河川整備計画とは、当面（概ね20～30年の間）の具体的な河川整備の内容等を定める、流域住民の生命財産にかかわる非常に大切な計画です。河川行政と住民との情報の共有が最も大切なのに、小さな新聞広告だけでは大半の住民は知ることすらできません。また、200ページ近い資料は、役所のロビーで閲覧するか、ホームページで検索するしかありません。河川法上、整備計画については説明する必要があるようですが、よほど住民に知られたくないのでしょうか。

「危険な立野ダム建設は整備計画から外すべきだ」との意見をたくさん出す必要があります。そこで皆様へのお願いです。

- ①あなたの立野ダムについてのご意見を文章にまとめ、提出してください。
- ②説明会に参加して、あなたの立野ダムについてのご意見を発言してください。

下の新聞広告をお読みにになり、詳しくは別紙（ピンク色の紙）をご覧ください！

皆様のご意見をお聞かせ下さい。

～白川水系河川整備計画 (変更原案)を公表しました～

国土交通省熊本河川国道事務所と熊本県では、白川の今後30年間の川づくりのための計画(河川整備計画(変更原案))を公表しましたので皆様のご意見をお聞かせ下さい。

- 意見期間**
- 令和元年11月19日(火)15:00まで
 - ホームページ、意見箱、住民説明会で意見することができます。
- 募集方法**
- 白川流域周辺30箇所に意見箱を設置しています。
 - 変更原案、概要パンフレットについては、ホームページか意見箱の設置箇所でご覧いただけます。詳細についてはホームページをご覧ください。
- 問い合わせ先**
- 国土交通省 熊本河川国道事務所
TEL096-382-1111・FAX096-382-4253
 - 熊本県 河川課
TEL096-333-2507・FAX096-382-3277

熊本河川国道事務所ホームページアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/kumamoto/>
熊本県ホームページアドレス https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_29450.html

住民説明会 下記の7箇所で説明会を開催します

説明内容 ●白川水系河川整備計画(変更原案)の内容について
(白川における今後30年間の河川整備の内容について)

場所	熊本市 中央公民館 7F大ホール
日時	令和元年10月23日(水) 午後7時～
場所	熊本市 西部公民館
日時	令和元年10月25日(金) 午後7時～
場所	菊陽町 老人福祉センター
日時	令和元年10月30日(水) 午後7時～
場所	熊本市 龍田公民館
日時	令和元年10月31日(木) 午後7時～
場所	阿蘇市 農村環境改善センター
日時	令和元年11月5日(火) 午後7時～
場所	阿蘇市 阿蘇西小学校 体育館
日時	令和元年11月6日(水) 午後7時～
場所	大津町 生涯学習センター 文化ホール
日時	令和元年11月7日(木) 午後7時～

※駐車場に限りがありますので、公共交通機関をご利用下さい。

熊本日日新聞広告2019年10月16日掲載

●大丈夫なの？白川上流に穴あきダム



満席となったシンポジウム 2019.6.16

6月16日に熊本市の鶴屋東館（パレオ会議室1）で開いた「九州北部豪雨7周年シンポジウム 大丈夫なの？白川上流に穴あきダム 再考・立野ダム建設」は、120名の参加で会場はほぼ満席となりました。

熊本県立大学名誉教授の中島熙八郎先生（京大論工博）に「私たちの上流に実験的制御責任放棄の首縊りダム＝立野ダムの建設はお断り！」という演題でご講演いただきました。

講演の中で、ダムの常用・非洪水吐き放水門の閉塞による濁急流の「津波的」大量越水。ダムの側面及び底部に節理（割れ目）、溶岩自破砕部、凝灰角礫などの多いことによる堤体周辺部の破碎や漏水。常用・非洪水吐き放水門の閉塞とダム湖内堆積物の除去困難による下流部へ水供給途絶などの観点から、立野ダム建設の危険性や、流域に及ぼす悪影響について明らかにされました。会場からも活発な意見交換がなされました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！

常用・非洪水吐き放水門の閉塞とダム湖内堆積物の除去困難による下流部へ水供給途絶などの観点から、立野ダム建設の危険性や、流域に及ぼす悪影響について明らかにされました。会場からも活発な意見交換がなされました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！

●白川の水位が激減、堆積した土砂も露出

6月上旬、白川の水位が激減しました。下の写真は、6月12日に撮影した熊本市の大甲橋から見た上流側と下流側の写真です。入梅前の少雨と、田植えの農業用水取水のためだと思えますが、こんな光景を見たのは初めてで驚きました。

川底に大量にたまった土砂もあらわになりました。熊本地震で崩壊した立野峡谷から流れてきた大量の土砂や火山灰だと思われます。川底が上がった分、洪水時の水位も上がることは明らかです。これではせっかく堤防をつくっても、洪水時の白川の流下能力は下がる一方です。

堤防で固定された河川の川底に土砂が堆積するのは当然です。流れが速い上流で「浸食」された土砂は流れる水のはたらきで「運搬」され、流れがゆるやかな下流に「堆積」することは、小学校の理科でも学習することです。

川を堤防で固定したからには、川底にたまった土砂は定期的に浚渫（しゅんせつ）すべきなのに、それを放置したままでは川底は上昇し、ますます「天井川」となってしまいます。危険な立野ダムを造る予算があれば、早急に白川の川底を浚渫すべきです。



熊本市・大甲橋から見た白川の上流側と下流側 2019.6.12撮影

●台風19号が立野ダムを襲っていたら？

10月12日に伊豆半島に上陸した台風19号は甚大な被害をもたらし、多くの堤防が決壊し、緊急放流した（洪水調節できなくなった）ダムも相次ぎました。もし、立野ダム完成後に台風19号が阿蘇地方を襲っていたら一体どうなったのでしょうか。

2016年の熊本地震で、立野ダム水没予定地は大半が土砂崩壊を起こしました。土砂崩壊箇所のは半分は放置されたままで、崩壊はさらに進んでいます。そこを今回のような記録的な豪雨が襲えば、さらなる土砂崩壊が発生したはずで

す。2012年7月の九州北部豪雨では、阿蘇カルデラ内で400か所以上の土砂災害が発生しましたが、それを上回る土砂災害が発生したはずで

す。阿蘇カルデラ内の土砂災害で発生した大量の流木や土砂、岩石等は、すべて立野ダム地点を

通って白川を流れ下ります。もし立野ダムの完成後にそのようなことになってい

れば、幅5mの立野ダムの穴は流木や土砂、岩石等でたちまちふさがり、ダムは洪水調節機能を失い、1時間余りで満水となります。ダムの水位が上がると、周辺の脆弱な火山性の地盤が地下水位の上昇による「湛水地すべり」で崩落します。立野ダムが満水となった時点で大規模な土砂崩壊が発生すれば、ダム津波が発生します。大量の流木とともに濁流がダムを乗り越え、大津町、菊陽町、熊本市などの下流を襲ったに違いありません。立野ダムは下流域を守るどころか、災害をひき起していたはずで

2019.7.2

梅雨前線の影響で県内は強い雨が
続いている。昨年7月、中国・四国
地方を中心に200人超が犠牲にな
った西日本豪雨が思い出される。

この豪雨では、愛媛県の肱川の二
つのダムが満杯となって洪水調節が
できなくなり、下流域では大規模な
浸水が起き犠牲者が出た。ダムの治
水効果の限界を露呈した形だ。

治水ダムは大雨時、流入した水の
一部をため、下流に流す水量を減ら
す。しかしダム湖の水位が上昇し満
杯になった場合、ダムを守るため流
れ込む水量と同量を放流する。つま
り下流で増水が続いている中、「ダ
ムがない状態」になる。下流の水位
は一気に上昇し、危険を増す。

こうした事態は県内でも起きてい
る。球磨川の県営市房ダムでは洪水
調節不能の状況が1971、82、95
年の3回発生。71年は下流の人吉市
などで1300戸が床上浸水した。

台風の取材中に、市房ダムの洪水
調節が不能になろうとした事態に遭

射程 ダム治水効果の限界

遇したことがある。2005年9月、
人吉市の災害対策本部で話を聞いて
いると、上流のダム管理所からファ
クスが届いた。2時間後に洪水調節
をやめるとの内容だった。

市役所から見える球磨川は危険水
位を超えていた。ファクスを見た市
幹部が「今こそ調節が必要なのに」
と、憤りと戸惑いの表情を見せたの
を覚えている。この時は雨が弱まり
ダムは洪水調節をかるうじて維持。
人吉市での浸水被害は免れた。

市房ダムは100年に1回の洪水
を防ぐとされているが、相次ぐ調節
不能で、下流域住民のダムへの不信
を強めることになったようだ。

白川では治水専用の国営立野ダム
(南阿蘇村、大津町)が建設中だ。
国は洪水調節効果を強調するが、万
能ではない。行政はダムの治水に限
界があることを住民にきちんと説明
し、迅速な避難の必要性を周知させ
るべきだ。昨年の愛媛の事態を繰り
返してはならない。(木村彰宏)

熊本日日新聞「射程」2019年7月2日掲載

●立野ダム建設現地と北向山を見る会



10月20日、「立野ダム建設現地と北向山を見る会～ダム建設現地周辺は一体どうなっているの？」を開きました。各地から50名が参加。阿蘇自然守り隊の松本久さん、中島一美さんが、立野ダム展望所から長陽大橋の上まで歩きながら詳しく説明されました。

まずはダム本体建設地です。仮排水路に白川の流れを転流させ、両岸の掘削が進んでいる状況には胸が痛みました。「ここにダム本体ができるとは知らなかった」という方も多いようでした。

少し上流側にさかのぼり、ダム本体建設地の真横から見ると、熊本地震で崩落した対岸（左岸側）の山肌がコンクリートでおおわれています。その背後の北向山も、熊本地震で多くの箇所が崩れているのですが、少しずつ緑が復活していました。

これまでも立野峡谷や北向山は、何十年か何百年かに一度の大雨や大地震で何度も崩落していたはずで、それが年月をかけて緑が復活することを繰り返してきたと考えられます。ところが、ダムを建設してしまえば、大半が崩落しているダム湖のまわりは、このような醜いコンクリートで全ておおわれると考えられます。脆弱な地質を考えると、それも短い期間に崩れることは明らかです。

長陽大橋から見ると、特に黒川は両岸が崩落し、以前は見えていた旧道もすべて崩落により見えなくなっていました。この長陽大橋も、ダム満水時は橋脚の半分近くが水没してしまいます。その時、周りの地盤は一体どうなるのでしょうか。また、新しい阿蘇大橋の橋脚が、削り取られた立野溶岩の柱状節理に穴をあけて建設されているのが確認できました。



※写真は上から①立野ダム展望台、②コンクリートで覆われたダム本体建設地左岸の山肌、③長陽大橋の上

編集後記 先日の台風19号や昨年の西日本豪雨をはじめ、近年の全国の豪雨災害を検証すると、これまで国が進めてきたダムと連続堤防に洪水を閉じ込める治水対策は、「想定外」の災害の場合、むしろ災害を拡大させているという事実と直面します。洪水被害の多くは、堤防建設に伴う内水氾濫（川にはけ切れない氾濫）です。そればかりか、堤防決壊やダム放流が人命を奪う事態さえ起きています。河川の氾濫の大きな要因は、河床に堆積した土砂です。連続堤防で川を固定すれば、河床には当然土砂が堆積しますが、全国各地で堆積土砂のしゅんせつが放置されたままとなっています。また、間伐されていない放置された人工林も土砂崩壊の大きな要因となっています。巨額な税金を使ってダムを造るのではなく、まずは上流域では森林の保全、下流域では河床に堆積した土砂の撤去を進めるべきです。それ以上の問題は、国が河川の情報を独占し、住民に知らせない、疑問にも答えようともしない点です。それを変えていくには、一人一人が声を上げ続けるしかないようです。(N.O.)